

「私の第一声⑤」

【高校時代①】

高校に入学しても私の英語嫌いは続きます。英語の最初の授業で、指名を受けて、自分の席で立ち上がったものの、何と答えて良いかわからず黙っている私に、担当教員が怒りをぶつけてきました。「とうとうこんなこともわからない生徒が入学してきたか！」

次の日には「質問に答えられないと激怒する先生がいる」という噂が学年に広まり、そのエピソードの「こんなこともわからない生徒」という不名誉な役割で私は有名になってしまいました(汗) 私は、父親に進学を薦められていた学校の入試を突破できるだけの点数が取れなかったため、志望校を変更してこの高校にきたのです。それでもなお、授業についていけないのですから、高校選びは難しいですね。

競争原理を当然と思っていた当時の私は、自分の力のなさを恥ずかしく思っただけでしたが、今から考えれば公立学校の教員としては、この発言は容認できません。教員の仕事は、子どもの状況を把握して、その子を伸ばすための支援をすることです。その子の現状が、たとえ予想外に低かったとしても、そこから始めるのは当然です。

後々聞いたのですが、この時期わが母校は、いわゆる有名大学に何人合格させるかという面での実績が低下していたようで、学校経営の面からプレッシャーをかけられていて、入学生徒のレベル低下をその原因に感じ、焦っていたそうです。高校の先生も大変です。

近年でも、私立高校への助成を拡充する一方、いわゆる入学試験に高い点数を求められる学校により高い成果を求めたり、志望者数が定員割れする公立高校の再編を一律に図ったりする施策が行われるなど、競争原理による教育改革が進められています。税金で運営されるのですから、無駄のない経営と成果が求められるのは当然ですが、競争だけを煽ったり、高校の価値を大学進学だけに置いてしまうと、現役の高校生たちに不要な負担がかかったり、教育として必要な取組みを実施しづらくなるなど、子どもたちの不利益につながる可能性があります。私自身の戒めとして、高校の価値を特徴を含め総合的に見て選んでいくことや、未来を担うすべての子どもたちを大切にすることを教育施策

を市民として望む姿勢が大切だと感じています。

中学校現場においても、常に生徒の現状から始めることが大切だと考えています。現三年生については、今年度4月の学力学習状況調査の結果を分析し、次号の校長だより裏面でお知らせします。また、各個人の状況についても、三中では、今年度より、国の学習指導要領の改訂に合わせ、全教科の評価方法を統一し、学級担任がそれぞれの生徒の各教科の評価内容をある程度把握し、次にどのようなことに取り組みれば、学習の成果を評価に反映できるかアドバイスできるように準備を進めています。もちろん、詳細については各教科担当しかわからないこともありますが、懇談会等で担任・生徒本人・保護者と相談し、今後の学習方法や内容を、具体的に決めていけたらと考えています。

私の高校時代に戻ります。最初の授業で好きではなくなってしまったこの先生に、結局3年間、私は英語を学ぶのですが、あまり授業に身が入らず、最後まで英語嫌いは治りませんでした。しかし、3年生の3学期、この先生の授業で今でも覚えているシーンがあります。それまで、文法や英文解釈の説明しかしたことのなかった(ように感じていた)先生でしたが、その日の英文に海外の交通事情に触れる部分があり、欧米の交通事故では、横断歩道上での事故かそうでないかで、罪や保障される金額がずいぶん違うということで、事故にあった被害者が必死で横断歩道に向かうというご自分の目撃した経験を、身振り手振りを入れて説明してくれたのです。先生の意外な人間味ある様子に触れ、こんな方だったんだなあと感じ、もっと英語の授業を大切にできればよかったなあと後悔したのです。

教科の好き嫌いや、学習をがんばられるかなどは、各個人のちょっとしたきっかけやタイミングでずいぶん変わってきます。三中教職員は、温かい雰囲気と、前向きな姿勢で学習を進められるよう、また、できるだけ生徒全員によりきかけを用意し、よいタイミングで学習を進められるように準備していきますので今後よろしくお願い致します。

【不定期コラムNo.16】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP